

第49回： 水環境を考えるために地理情報システム(GIS)を活用する

開催日： 2004年11月9日(火) / 会場：「東京大学弥生講堂「一条ホール」」東京都

開催趣旨： 地理情報システム(GIS)は、水環境の評価や予測、水環境についての情報共有といった目的のために、どのように活用できるのでしょうか。GISは、パーソナルコンピュータの高性能化などによって、近年ますます使いやすくなってきています。また、衛星観測データや、PRTR等の化学物質の排出情報など、表示対象となるデータも蓄積が進んでいます。政府においても、GISアクションプログラム2002-2005により、以前より引き続いて、国土空間データ基盤に関する標準化、地理情報の電子化、GISの普及などを進めています。水環境を考える際にも、多くのデータに基づいた評価や予測、さらに多面的な情報共有に向けて、GISがますます重要な役割を果たすと期待できます。本セミナーでは、水環境を考える際のGISの活用について、背景知識、課題や将来の方向性、またGISで何ができるかだけでなく、活用のためにどのような準備が必要かという点についてもご講演いただく予定です。

講演タイトル(講師/所属(当時)):

- 地理情報システム(GIS)の概要とその水環境への適用(後藤真太郎/立正大学地球環境科学部)
- 河川に関する電子地理情報の整備・活用(横田寛伸/国土交通省河川局河川計画課)
- Web-GISを活用した住民参加に基づく水環境情報共有の取り組み(藤山浩/島根県中山間地域研究センター)
- 有害化学物質のリスク管理とGIS(鈴木規之/(独)国立環境研究所環境ホルモン・ダイオキシン研究プロジェクト)
- 集水域における環境影響評価へのGISの活用(高岸且/(株)パスコ九州事業部)